

科目責任者 越前 宏俊（薬物治療学研究室）

■ 教育目的

薬物治療に対して責任の一端を担える臨床薬剤師を養成するため、その基盤となる専門的スキル（情報検索、病態評価、薬物動態評価、文献評価）を習得する。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-③、YD-④、YD-⑥】

■ 学習到達目標

1. 医薬品に関する種々の情報を適切な情報源から入手できる。（知識・技能）
2. 生理機能や血液、尿検査等の臨床検査データから患者の病状を適確に把握できる。（知識・技能）
3. 薬物血中濃度データをもとに患者に個別化した用法・用量を提案できる。（知識・技能・態度）
4. 専門的な視点から医薬品情報を評価、整理、加工、伝達できる。（知識・技能・態度）

■ 準備学習（予習・復習）

予習：実習書の内容について予習するとともに、各項目について課せられた宿題を行う。（40分以上）

復習：実習書に再度目を通し、理解を深める。（20分以上）

■ 授業内容

| No. | 項目 | 授業内容 | SBOコード |
|-----|------------------|--------------------------------|--------------------------|
| 1 | 医薬品情報検索1 | 三次資料と Medline 検索 | E3(1)-②・③、F(3)-② |
| 2 | 医薬品情報検索2 | 電子化情報源 | E3(1)-②・③、F(3)-② |
| 3 | 臨床検査データの解釈1 | バイタルサイン | E3(2)-①、F(1)-①、F(3)-① |
| 4 | 臨床検査データの解釈2 | 臨床検査値の解釈と評価1 | E3(2)-①、F(3)-①・④ |
| 5 | 臨床検査データの解釈3 | 臨床検査値の解釈と評価2と SGD | E3(2)-①、F(3)-①・④ |
| 6 | 薬物動態解析・TDM 1 | 治療薬物モニタリングと SGD | E3(3)-⑤、E4(2)-②、F(3)-③・④ |
| 7 | 薬物動態解析・TDM 2 | 薬物血中濃度データの解析とシミュレーション | E3(3)-⑤、E4(2)-①・② |
| 8 | 文献評価 | 臨床研究論文の批判的吟味と SGD | E3(1)-④～⑥ |
| 9 | プロフェッショナル・ライティング | プロフェッショナル・ライティングと SGD (A・B 合同) | E3(1)-④～⑥、F(3)-② |
| 10 | 医薬品評価 | 医薬品評価と SGD (A・B 合同) | E3(1)-③・⑥・⑦、F(3)-② |
| 11 | 総合実習 | SGD と発表 (A・B 合同) | E2(11)-①、E3(2)-②、F(4)-① |

■ 授業分担者

石橋 賢一 (No.1・2・4・5・11)、伊東 明彦 (No.8～10)、越前 宏俊 (No.4・5・8・9)、大野 恵子 (No.8～10)、小川 竜一 (No.1・2・6～11)、門田 佳子 (No.4・5・11)、庄司 優 (No.3～5・11)、高橋 晴美 (No.6・7)、高橋 雅弘 (No.3・5・8～10)、花田 和彦 (No.6・7)、深水 啓朗 (No.11)、宮沢 伸介 (No.5・9・10・11)、宮嶋 篤志 (No.6・7)、高島 勇基 (No.6・7)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

適宜、解説等によるフィードバックを行う。

実習への取り組み姿勢（50%）と課題・レポートの内容（50%）に基づいて総合的に評価する。

■ 参考書

「Drug Information: A Guide for Pharmacists」(McGraw-Hill)

「フィジカルアセスメントがみえる」(医療情報科学研究所)

「臨床薬物動態学：薬物治療の適正化のために」(丸善)

■ その他

本実習は薬剤基礎実習と連携した一連の医療薬学実習である